

第5節 歴史的・文化的環境の保全

1 文化財等の保存・活用

1-1 指定文化財の保存・活用

本県には、特色ある歴史風土に育まれた数多くのすぐれた歴史的・文化的資産（文化財）があります。

しかしながら、経年変化による損傷や過疎化・少子高齢化等による保護の担い手の減少など多くの課題があり、適切な保存と、積極的な活用を図ることが困難になりつつあります。

平成26（2014）年度においては、特に重要な文化財6件を、将来にわたって保存・活用するため、三重県指定文化財に指定しました。また、指定等文化財の現状を把握するため、文化財保護指導委員会を中心に必要な巡視・調査を行いました。さらに適切な保存とその活用を図るため、所有者や管理者等が行う保護事業に対して支援しました。

斎宮跡の歴史ロマン再生

斎宮跡は、指定面積137haを有する全国屈指の史跡であり、昭和45（1970）年から史跡解明のための調査を実施しています。

この調査結果に基づき、平成13（2001）年度までに、史跡中央部の近鉄斎宮駅北側にいつきのみや歴史体験館、1/10史跡全体模型等を整備し、平成22（2010）年度から史跡東部において斎宮寮の主要建物3棟の復元建物の建築を進めており、平成27（2015）年9月に完成しました。この復元建物の完成により、平安時代の斎宮を実物大で体感することができるようになります。また、史跡全体の回遊性を高めることを目的として古代伊勢道の復元工事を進めており、完成後には史跡斎宮跡の広さを歩いて体感することができます。

1-2 登録有形文化財の保護・活用

本県では、旧飯南郡図書館をはじめとする公共建築や紡績工場等の建造物など、約630件の近代化遺産が確認されています。これらの保存活用については、文化財登録制度の導入に伴い、各都道府県での対応が求められています。

平成26（2014）年度は、下津家住宅、中山寺、山口家住宅、栄楽館、麻野館、桐林館、中森家住宅、保田家住宅、長谷園の計36件が国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。

1-3 埋蔵文化財の調査・保存

県内には、約14,000件の埋蔵文化財の存在が確認されており、各種開発事業に際しては、原則としてそれらを現状保存することとしています。

しかし、埋蔵文化財の保護と開発との調和を図る上から、やむを得ず事前に発掘調査を実施して、結果を記録として後世に残すことも行っています。

平成26（2014）年度に、三重県埋蔵文化財センターが各種開発に伴い実施した発掘調査は21遺跡、斎宮歴史博物館が斎宮跡の解明のため実施した発掘調査は2地区でした。

表2-5-1 三重県内の埋蔵文化財数

（平成27年3月31日現在）

遺物散布地	4,862
古墳	7,149
社寺跡	457
城館跡	1,297
生産遺跡等	220
その他	472
合計	14,457

2章5節

● 歴史的・文化的環境の保全

1-4 史跡等指定地域の公有地化の推進

県内における史跡、名勝は国指定48件、県指定83件です。史跡斎宮跡等では史跡の有効活用を図るため、公有化が進められています。

平成26（2014）年度は、史跡の公有化の推進と保存・活用を図るため、国指定史跡等の土地買上、整備事業等に対して支援しました。

1-5 歴史的・文化的な遺産

わが国の中央部に位置し、東西日本の結節点として古くから開けてきた本県には、数多くの歴史的・文化的な遺産があります。

それらの多くは、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡・名勝・天然記念物に指定され保存・活用されています。

表2-5-2 三重県内の国・県指定等文化財数

（平成27年度3月31日現在）

種 別		国	県	計
重 要 有 形 文 化 財	建造物	24	44	68
	絵画	18	43	61
	彫刻	66	110	176
	工芸品	17	56	73
	書跡・典籍・古文書（内、国宝文書3）	45	56	101
	考古資料（内、国宝1）	10	29	39
	歴史資料	4	9	13
小 計		184	347	531
無 文 化 形 財	工芸技術	1	1	2
	芸能	0	1	1
小 計		1	2	3
民 文 化 俗 財	無形民俗文化財	8	37	45
	有形民俗文化財	1	25	26
小 計		9	62	71
記 念 物	特別史跡	1	—	1
	特別天然記念物	2	—	2
	特別名勝及び天然記念物	1	—	1
	史跡	36	71	107
	史跡及び名勝	0	3	3
	史跡及び天然記念物	0	0	0
	名勝	6	8	14
	名勝及び史跡	1	0	1
	名勝及び天然記念物	0	1	1
	天然記念物（地域を定めず）	15	4	19
	天然記念物	21	77	98
天然記念物及び名勝	1	1	2	
小 計		84	165	249
伝統的記念物群保存地区（選定）		1	—	1
文化財の保存技術		0	0	0
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（選択）		15	11	26
重要文化的景観（選定）		0	0	0
登録有形文化財（建造物）		196	0	196
登録記念物		1	0	1
合 計		213	11	224
総 計		491	587	1,078

1-6 三重県総合博物館(MieMu)の整備

三重県総合博物館（MieMu）では、市町等との役割分担のもとで、県内の博物館、市町や大学等の関係機関、地域の多様な主体等と連携協力して、三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・活用することとしています。

平成26（2014）年度には、これまでの取組を持続し、博物館づくりや関係機関との情報共有、資産の保全に取り組みました。

2 歴史的・文化的景観の保全・活用

2-1 歴史的・文化的資産を生かした風情あるまちづくりの推進

街道等を生かしたまちづくり活動等支援

県内9地域での街道等を生かした歴史散策の実施や講演会の開催等を支援しました。

2-2 熊野参詣道（伊勢路）の保全

平成16（2004）年7月に、熊野参詣道伊勢路を含む「紀伊山地の霊場と参詣道（さんけいみち）」がユネスコの世界遺産に登録されました。

吉野・大峯、熊野三山、高野山の三霊場とこれらを結ぶ大峯奥駈道、熊野参詣道、高野山町石道の参詣道が対象で、三重、奈良、和歌山の三県にまたがっています。

登録にあたっては、これらの遺産が、日本の信仰や文化に多大な影響を与え、また良好な形で継承されていることが評価されました。

本県では、熊野古道として親しまれている熊野参詣道伊勢路のうち、峠道を中心とした約33kmが往時の状況を示すものとして国史跡に指定されています。